テレビを設置する

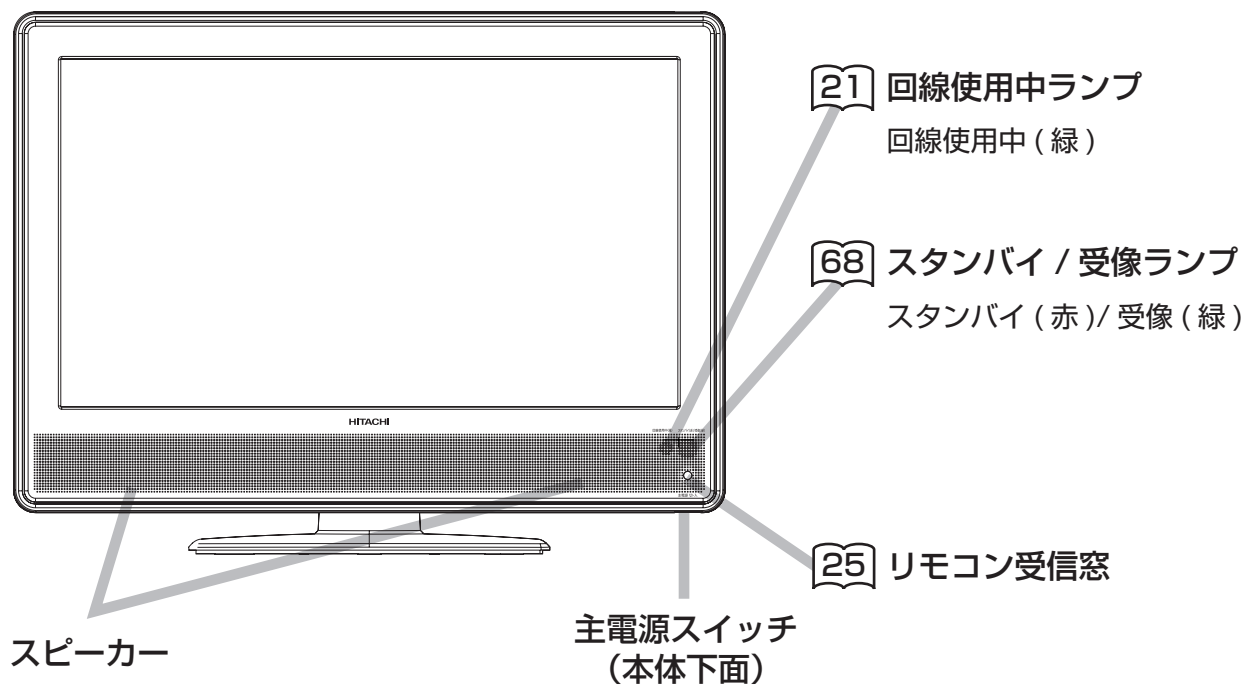
各部のなまえ

リモコン

メ　モ

参照ページマークについて

マークは、取扱説明書（本書）の参照ページを表しています。

本体　前面

※本機の「回線使用中」のランプが点灯している場合は、電話機をご使用にならないでください。
本機からの通信が正しくできないことがあります。

お知らせ

操作ができなくなった場合は

本体の主電源スイッチで電源を「切」にし、スタンバイ / 受像ランプが消灯してから再度、主電源スイッチを「入」にしてください。

各部のなまえ（つづき）

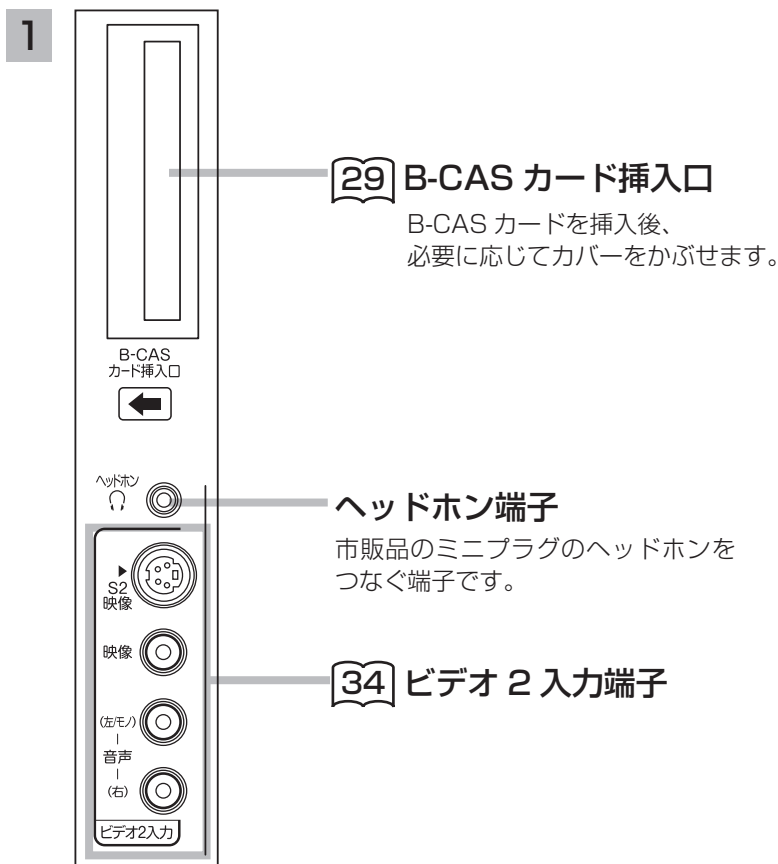
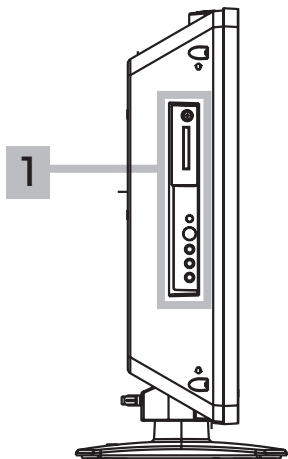
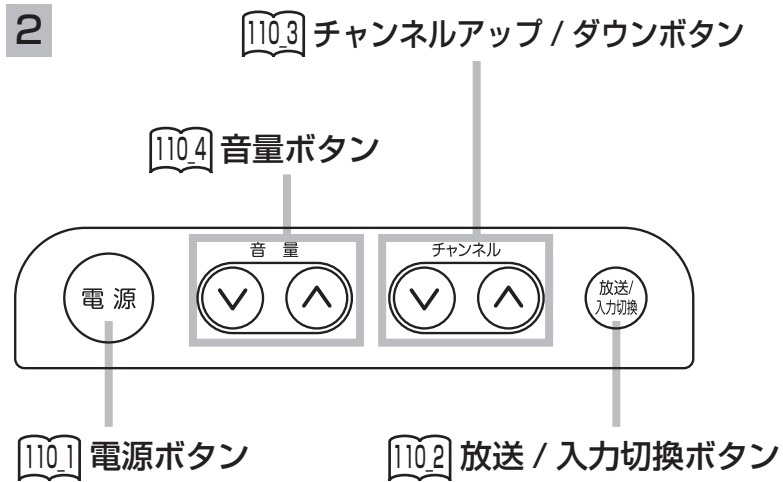
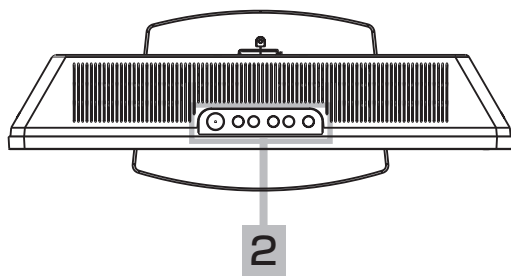
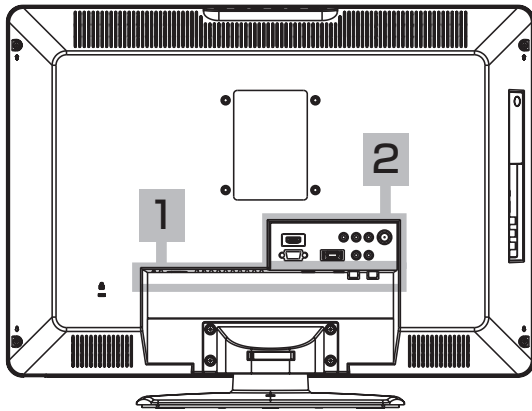
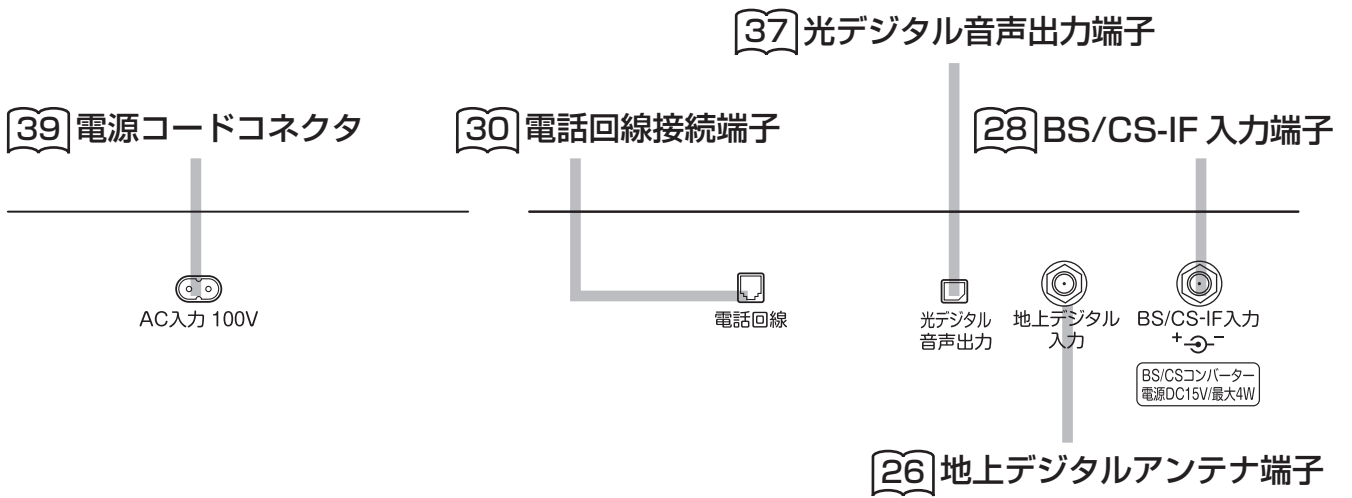
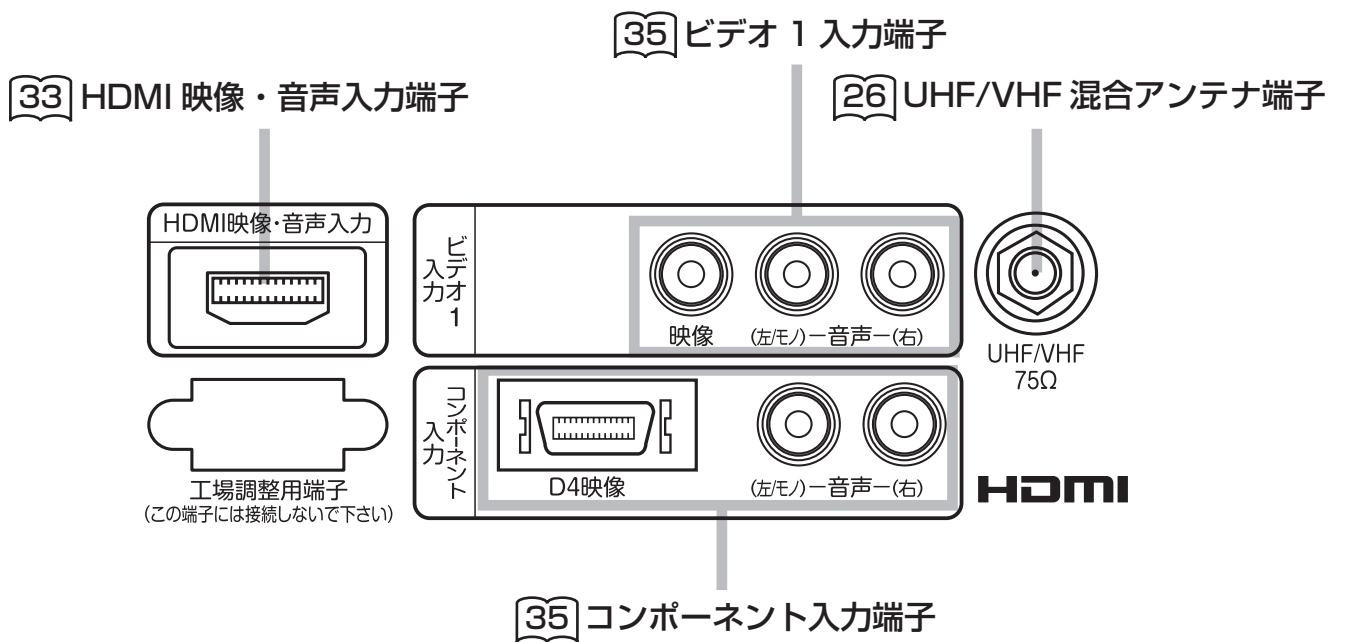
本体　側面

本体　上面

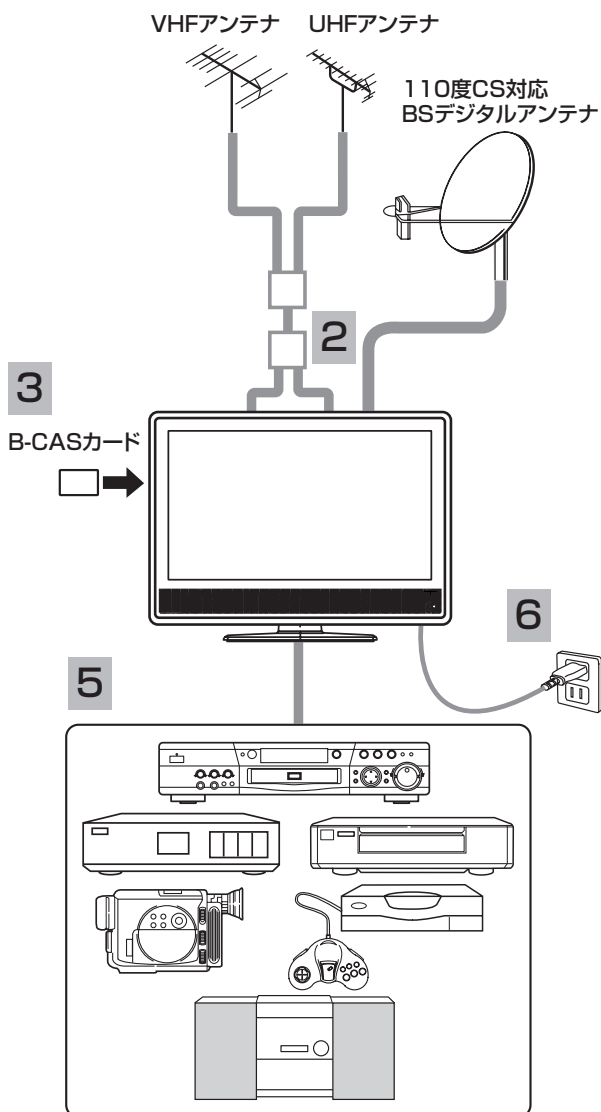
本体　後面

1
2

1
37 光デジタル音声出力端子
39 電源コードコネクタ
30 電話回線接続端子
28 BS/CS-IF 入力端子
AC入力 100V
電話回線
光デジタル
音声出力
地上デジタル
入力
BS/CS-IF入力
BS/CSコンバーター
電源DC15V/最大4W
26 地上デジタルアンテナ端子

2
35 ビデオ 1 入力端子
33 HDMI 映像・音声入力端子
26 UHF/VHF 混合アンテナ端子
HDMI映像・音声入力
ビデオ入力1
映像
(左/モノ)ー音声ー(右)
UHF/VHF
75Ω
コンポーネント入力
D4映像
(左/モノ)ー音声ー(右)
工場調整用端子
(この端子には接続しないで下さい)
HDMI
35 コンポーネント入力端子

設置と準備の進めかた

重要 本機の設置やアンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。（設置・準備費用については、お買上げの販売店にご相談ください。）

ご自分で設置と準備をされるときは、下記の順番で作業してください。

1 付属品を確認し、リモコンに電池をいれます 25

2 アンテナ線と本機を接続します 26

3 B-CAS カードを挿入します（重要）29

4 電話回線を接続します 30

5 お手持ちの機器を接続します 31

- ■ ビデオ、DVD レコーダーなどの録画機器 32
  ※本機にはモニター出力端子がありませんので、本機から録画することはできません。
- ■ HDMI 出力対応の DVD レコーダーなど 33
- ■ ビデオカメラ 34
- ■ DVD プレーヤー 35
- ■ ゲーム機と接続 36
- ■ デジタル音声入力端子付きオーディオ機器 37
- ■ CATV ホームターミナル 38

6 電源プラグをつなぎます 39

7 電話回線を設定します 45

8 お住まいの地域に合わせて受信設定をします 52 , 55

9 ダウンロード設定 63 をします

地上デジタル放送を受信するには

地上デジタル放送を受信するには、下記の要件がすべて整っていることが必要です。

1. 受信地点は、すでに放送地域になっていますか？

2006 年 12 月から全国の都道府県庁所在地において地上デジタル放送が見られるようになりました。その後、その受信可能エリアは順次拡大される予定です。地上デジタル放送の受信エリアのめやすは、総務省またはお近くの地方総合通信局にお問い合わせください。

2. UHF アンテナは、地上デジタル放送に対応していますか？

UHF アンテナには全帯域型と帯域専用型がありますので、全帯域型または地上デジタル放送対応型をご使用ください。

3. UHF アンテナは、地上デジタル放送の送信塔の方向に向いていますか？

現在お住まいの地域で、地上デジタル放送の送信塔が地上アナログ放送と同じ方向の場合は、そのままの向きで地上デジタル放送を受信できますが, 送信塔の方向が違う場合は、アンテナの向きを地上デジタル放送の送信塔の方向に変更する必要があります。

4. 地上デジタル放送受信機の入力信号は、所要の信号強度がありますか？

地上デジタル放送は、現在のアナログ放送との混信を避けるために、当初は非常に小さな出力で放送されますので、受信エリアが限定されます。また、受信エリア内であっても、地形やビル陰などによって電波がさえぎられる場合や電波の伝搬状況などにより、視聴できない場合があります。

●ケーブルテレビまたは共聴・集合住宅施設でご視聴の方は、ケーブル事業者または共聴施設管理者にお問い合わせください。

●地上デジタル放送を受信するためには、最初に「受信地域の設定」55 の設定と「受信チャンネルのスキャン」56 の操作が必要です。

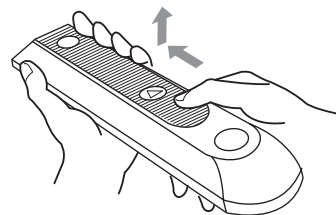
リモコンの取り扱い

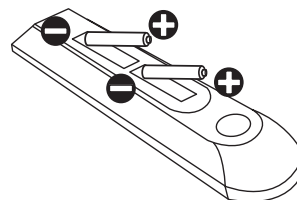
⚠注意

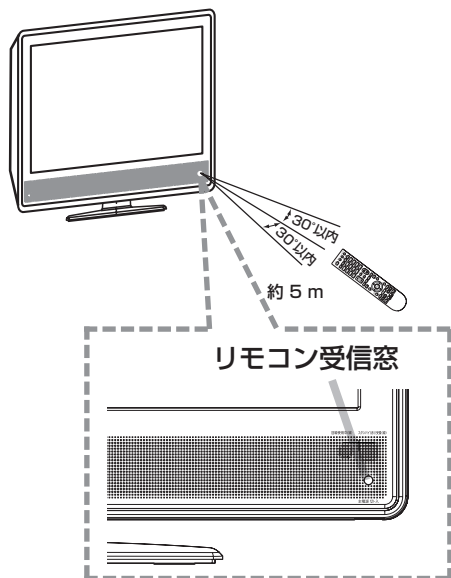
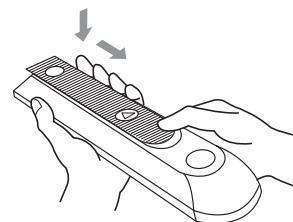
乾電池の使用上のご注意

●本機で指定されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となることがあります。
●電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、リモコンの表示どおり正しく入れてください。まちがえますと電池の破裂、液もれにより、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
●付属の乾電池は保存状態により短時間で消耗することがあります。その場合は新しい乾電池と交換してください。

1 電池ぶたをはずす

矢印の方向に押しながら開けます。

2 乾電池を入れる

付属の単３形乾電池を⊕、⊖の表示どおりに入れます。

3 電池ぶたを閉める

電池ぶたを矢印の方向に押して戻します。

●リモコンは、本機のリモコン受信窓に向けて操作します。
●リモコンは、それぞれのリモコン受信窓の正面から約５メートル、左30度、右30度の範囲内でお使いください。

お守りください　リモコンの使用上のご注意

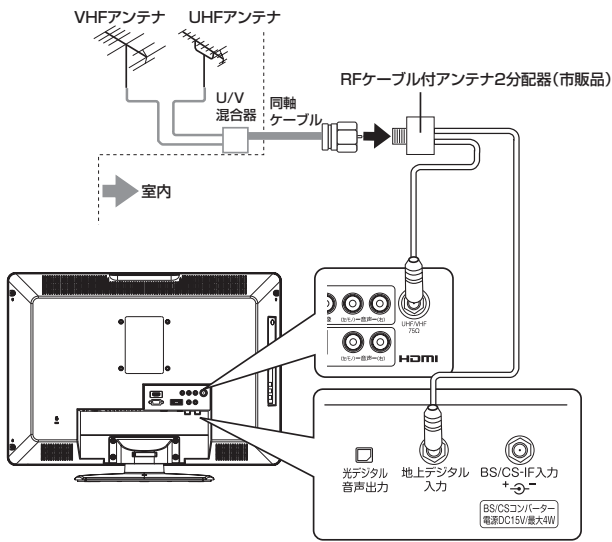
●リモコンを落としたり、衝撃を与えないでください。
●リモコンに水をかけたり、ぬれたものの上に置かないでください。故障の原因になります。
●長時間ご使用にならない場合は、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。
●リモコンの操作がしにくくなった場合は、乾電池を交換してください。
●リモコン受信窓に直射日光などの強い光が当たると動作しなくなることがあります。光が直接当たらないようにテレビの向きを変えてください。
●電子レンジなどの加熱料理器に、リモコン送信機・乾電池を入れて加熱しないでください。発熱により火災・故障の原因となります。

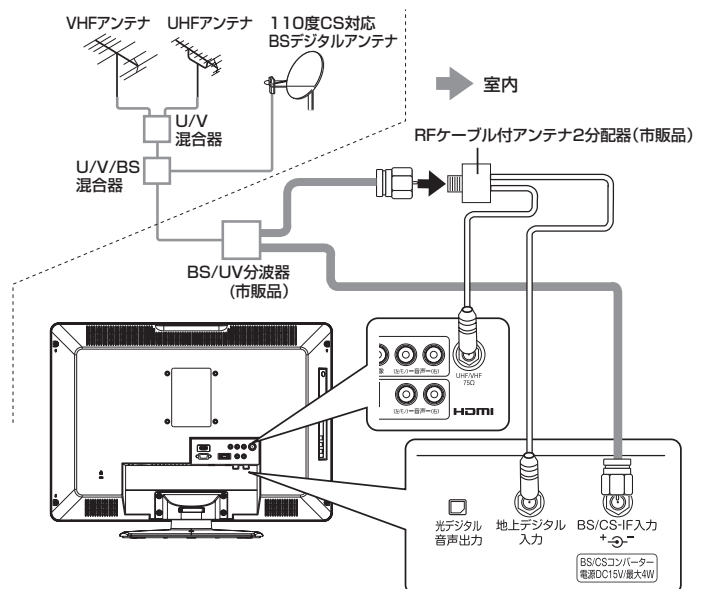
アンテナと接続する

⚠注意
アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

①アンテナの種類に応じ、下図の要領で UHF/VHF 混合アンテナ端子に接続してください。
②地上デジタル放送を受信するときは、UHF アンテナを使用します。VHF アンテナでは受信できません。また、現在お使いのアンテナが UHF アンテナでも、調節や取り替えが必要な場合もありますので、その際は、販売店にご相談ください。
③本機の UHF/VHF 混合アンテナ端子への接続に市販品の U/V 混合器やアンテナアダプターを使用する場合は、できるだけ本機より離して接続してください。
④ UHF/VHF アンテナが独立のときなど、混合器の取り付けが必要な場合は、販売店にご相談ください。
⑤ CATV ケーブルと接続するときは、伝送方式や接続について詳しくは CATV 会社にお問い合わせください。

UHF/VHF アンテナの接続

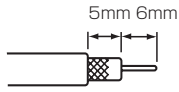
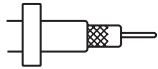
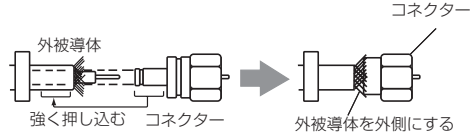
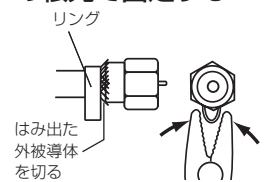
UHF/VHF アンテナが混合のとき

① アンテナ 2 分配器（市販品）の RF ケーブルを UHF/VHF 混合アンテナ端子と地上デジタル入力端子それぞれに接続する。
② U/V 混合器の出力またはお部屋のアンテナ端子とアンテナ 2 分配器（市販品）の IN 端子を同軸ケーブル線で接続する。

BS・CS が混合のとき（例：UHF/VHF/BS 混合入力）

① アンテナ 2 分配器（市販品）の RF ケーブルを UHF/VHF 混合アンテナ端子と地上デジタル入力端子それぞれに接続する。
② BS/UV 分波器の UV 出力とアンテナ 2 分配器（市販品）の IN 端子を同軸ケーブル線で接続する。

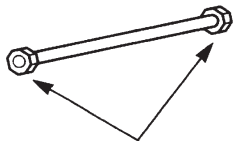
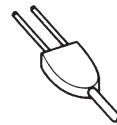
お守りください

アンテナ線接続時のご注意

●アンテナ線には、妨害の少ない同軸ケーブルの使用をおすすめします。
（平行フィーダーを使用しますと受信状態が不安定となり、妨害電波を受けやすく、画面にしま模様が現れたりします。）
●やむを得ず平行フィーダーを使用する場合は、本機よりできるだけ離してください。
●室内アンテナも妨害電波を受けやすいので、お避けください。
●アンテナ線に対して、電源コードや他の接続コード類をできる限り離してください。

F 形接栓（市販品）の接続

きれいな映像を楽しむために

きれいな映像をお楽しみいただくには、アンテナ線や各種ケーブル類の接続状態が非常に大切です。

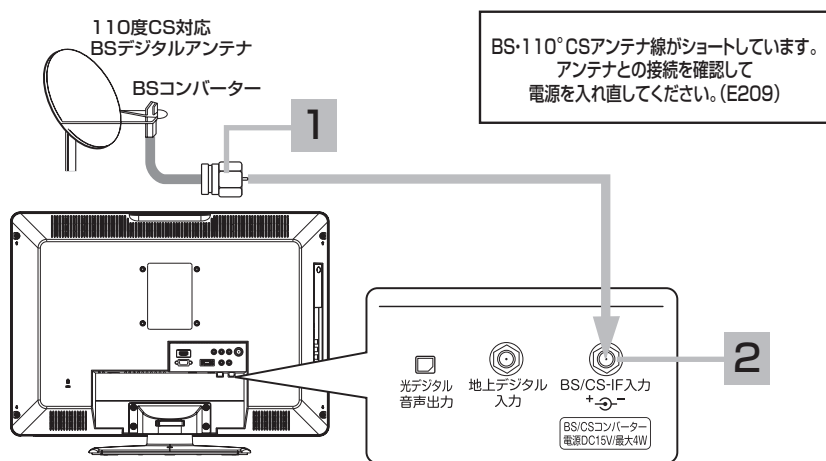
●アンテナ線は同軸ケーブルに F 形接栓を接続して使用することをおすすめします。

●市販品の BS/UV 分波器・分配器はシールドタイプの使用をおすすめします。

CATV ケーブルと接続するときの地上デジタル放送受信について

CATV には、以下のような地上デジタル放送の伝送方式があります。詳しくは、CATV 会社にお問い合わせください。

伝送方式	本機の対応
トランスモジュレーション方式	UHF 帯の地上デジタル放送をケーブルテレビ局の電波に変換して伝送します。本機のアンテナ端子に接続しても地上デジタル放送を受信できません。CATV のホームターミナルと接続してください。(38 をご覧ください)
同一周波数パススルー方式	UHF 帯の地上デジタル放送を変換しないでそのまま伝送します。本機の UHF/VHF アンテナ端子に接続して地上デジタル放送を受信することができます。
周波数変換パススルー方式	UHF 帯の地上デジタル放送を CATV で伝送可能な別の周波数に変換して伝送します。本機の UHF/VHF アンテナ端子に接続して地上デジタル放送を受信することができます。

アンテナと接続する（つづき）

BS/CS アンテナの接続

接続するときには安全のため、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。下記メッセージが表示される場合は、テレビの電源を切ってから 110 度 CS 対応 BS デジタルアンテナを確認し、もう一度電源を入れてください。現象がなおらない場合は、「アンテナ電源設定」 60 **を「オフ」に設定して、お買い上げの販売店にご相談ください。**

1 BS/CS アンテナ線の同軸ケーブルを F 形接栓（市販品）に接続する

UHF、VHF、BS が混合されているときには、BS/UV 分波器 (市販品) が必要です。 26

2 F 形接栓 (市販品) を BS/CS-IF 入力端子に接続する

BS/CS-IF 入力端子は、BS コンバーターからの信号を受けるための端子です。また、この端子から BS コンバーターに DC + 15V を供給します。BS アンテナ線を接続するときには必ずテレビの電源を切ってください。

⚠注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

お守りください

●共聴受信等で視聴される (電源供給を必要としない) 場合には、「アンテナの設定を変更する」 60 をご覧になって、アンテナ電源の設定を必ず「 オフ 」にしてご使用ください。
●アンテナを接続するときは、安全のため、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
● BS/CS-IF 入力端子に F 形接栓を接続するときは、手で緩まない程度に締めつけてください。締めつけすぎると本機内部が破損する場合があります。

アンテナ線の接続についてのご注意

衛星放送を分配して他の機器で (衛星放送を) 視聴する場合、分配器は必ず多端子タイプの電流通過形をご使用ください。多端子タイプ電流通過形でない場合は、アンテナに供給している機器の電源を切ると、他の機器で衛星放送が受信できなくなります。

お知らせ

●アナログ CS 用アンテナや従来のスカイパーフェク TV ！用アンテナ（JCSAT-3、JCSAT-4 受信用）はご使用になれなせん。110 度 CS デジタル放送を受信する場合は、110 度 CS 対応 BS デジタルアンテナをご使用ください。
●ブースターや分配器をご使用になる場合は、110 度 CS 対応（周波数 2,150MHz 対応以上）であることをご確認の上、ご使用ください。従来の BS 用で周波数帯域が 1,335MHz のものや、CS 対応でも対応周波数が 1,895MHz などの 2,150MHz 未満のものをご使用になった場合、110 度 CS デジタル放送の一部もしくはすべてのチャンネルが受信できない場合があります。
●マンションなどの共同受信システムの場合で、110 度 CS デジタル放送に対応していない場合は、110 度 CS デジタル放送を受信できません。
● BS アンテナを使用する場合は、BS デジタル放送のみの受信が可能です。この場合、従来の BS アンテナのほとんどは使用できますが、一部の BS アンテナでは性能の劣化や BS デジタル放送受信に必要な性能が確保されず、BS デジタル放送を受信したとき、安定した受信ができないときがあります。このようなときは、BS アンテナ製造元のお客様窓口や、BS アンテナを購入した販売店などにお問い合わせください。

メ　モ

BS/CS アンテナ線の接続についてのお願い

● F 形接栓（市販品）をご使用ください。
●アンテナの方向調整、設置についてはアンテナの取扱説明書をご覧いただくか、お買い上げの販売店にご相談ください。

映りがよくないときには

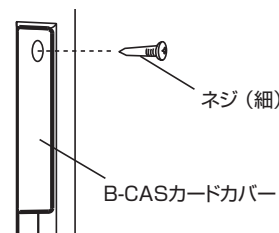
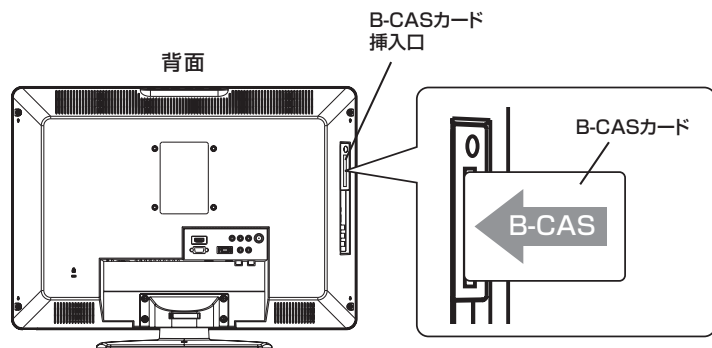
衛星放送の電波は微弱なため、受信するにはアンテナ、チューナーなどの正確な調整が必要です。もし、時々映像や音声が出なくなったりするときは販売店にご相談ください。また、雷雨や豪雨のような強い雨が降ったり、雪がアンテナに付着すると電波が弱くなり、一時的に画面や音声が止まったり、ひどい場合にはまったく受信できないことがあります。これは、気象条件によるもので、アンテナやチューナーの故障ではありません。

B-CAS カードを挿入する（重要）

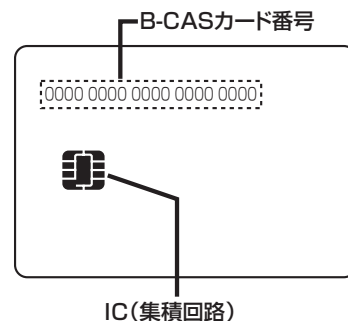
本機に付属のB-CASカードは、本機の電源プラグを電源コンセントに接続しない状態で、下記の手順に従って挿入してください。

1 B-CAS カードを挿入する

絵柄表示が見える面を背面側にして、B-CAS カード表面の矢印向きを挿入口へ合わせ、挿入が止まるまでゆっくりと確実に差し込む。

付属の B-CAS カード挿入口カバーを必要に応じてお使いください。

B-CAS カードについて

本機に付属の B-CAS カードには 1 枚ごとに違う番号（B-CAS カード番号）が付与されています。B-CAS カード番号はお客様の有料放送契約内容などを管理するために使われている大切な番号です。「(株) ビー・エス・コンディショナルアクセスシステムズカスタマーセンター」への問い合わせの際にも必要となります。
本機に付属の B-CAS カードの台紙の一部がユーザー登録用はがきになっています。台紙に記載の文面をよくお読みのうえ、ユーザー登録はがきに必要事項をご記入・押印してポストに投かんし、B-CAS カードを必ず登録してください。（登録料は無料です。）

■ **B-CAS カードについてのお問い合わせ（紛失など）**
（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ カスタマーセンター
TEL : 0570-000-250

お守りください

B-CAS カード取り扱い上の留意点

- B-CAS カードを折り曲げたり、変形させないでください。
- B-CAS カードの上に重いものを置いたり踏みつけたりしないでください。
- B-CAS カードに水をかけたり、ぬれた手でさわらないでください。
- B-CAS カードの IC（集積回路）部には手をふれないでください。
- B-CAS カードの分解加工は行わないでください。
- B-CAS カードは上記手順をご覧のうえ、本機前面の B-CAS カード挿入口に、奥まで正しく挿入してください。B-CAS カードを正しく挿入しないと、有料放送や一部のデータ放送を視聴することができません。
- ご使用中に B-CAS カードの抜き差しはしないでください。デジタル放送が視聴できなくなる場合があります。

B-CAS カードを抜くとき

万一、抜く必要があるときは、本機の電源プラグを電源コンセントから抜いたあと、ゆっくり B-CAS カードを抜いてください。B-CAS カードには IC（集積回路）が組み込まれているため、画面に B-CAS カードに関するメッセージが表示されたとき以外は、抜き差しをしないでください。

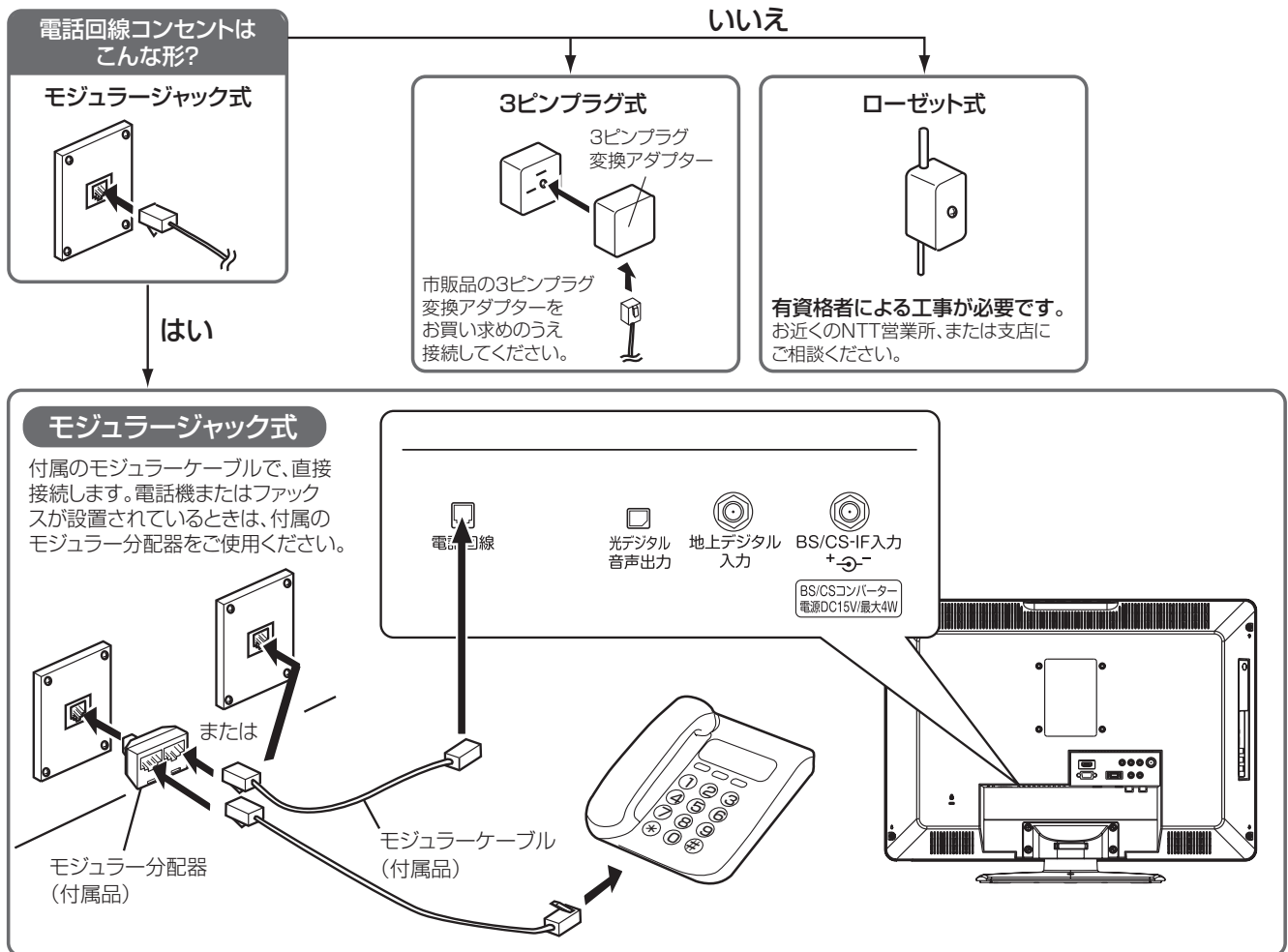
お知らせ

- 本機専用の B-CAS カード以外のものを挿入しないでください。故障や破損の原因となります。
- 裏向きや逆方向から挿入しないでください。挿入方向を間違うと B-CAS カードは機能しません。
- WOWOW、スターチャンネルなどの有料サービスを受けるには、B-CAS カードの登録のほかに個別の受信契約が必要になります。詳しくはそれぞれの有料放送を行う放送局のカスタマーセンターにお問い合わせください。

電話回線と接続する

本機は、モジュラージャック式のジャックから電話回線に直接接続できるようになっています。
ご使用の電話回線コンセントがモジュラージャック式でない場合は、変換アダプターまたは工事が必要です。

重要 ホームテレフォンやビジネスフォンをご使用の場合は、販売店か NTT 営業所、または支店にご相談ください。

電話回線コンセントの種類をご確認ください

お知らせ

●ケーブル電話などでは、うまく通信できないことがあります。詳しくは、ケーブル電話会社にお問い合わせください。
●６局４芯タイプの電話機の中で、NTT 仕様に準拠していない機器は、ご使用になれません。
●コードをはずすときは、プラグを持ち、ツメを押しながら抜いてください。また、プラグを差し込むときは、「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
●公衆電話、共同電話、地域集団電話、自動車電話、携帯電話、PHS、船舶電話には接続できません。
●キャッチフォン契約されている場合は、本機の通信中に電話がかかってくるとエラーが生じ通信が終了します。
●ファクシミリが接続されている場合は、ファクシミリの送受信中に本機が通信を行うと、ファクシミリのデータが正しく送受信できない場合があります。
●付属のモジュラー分配器を使用して、電話機などを接続している場合、本機が通信するとき電話機から呼出音がなる場合があります。このような場合には、市販の自動転換器をご使用になることをおすすめします。

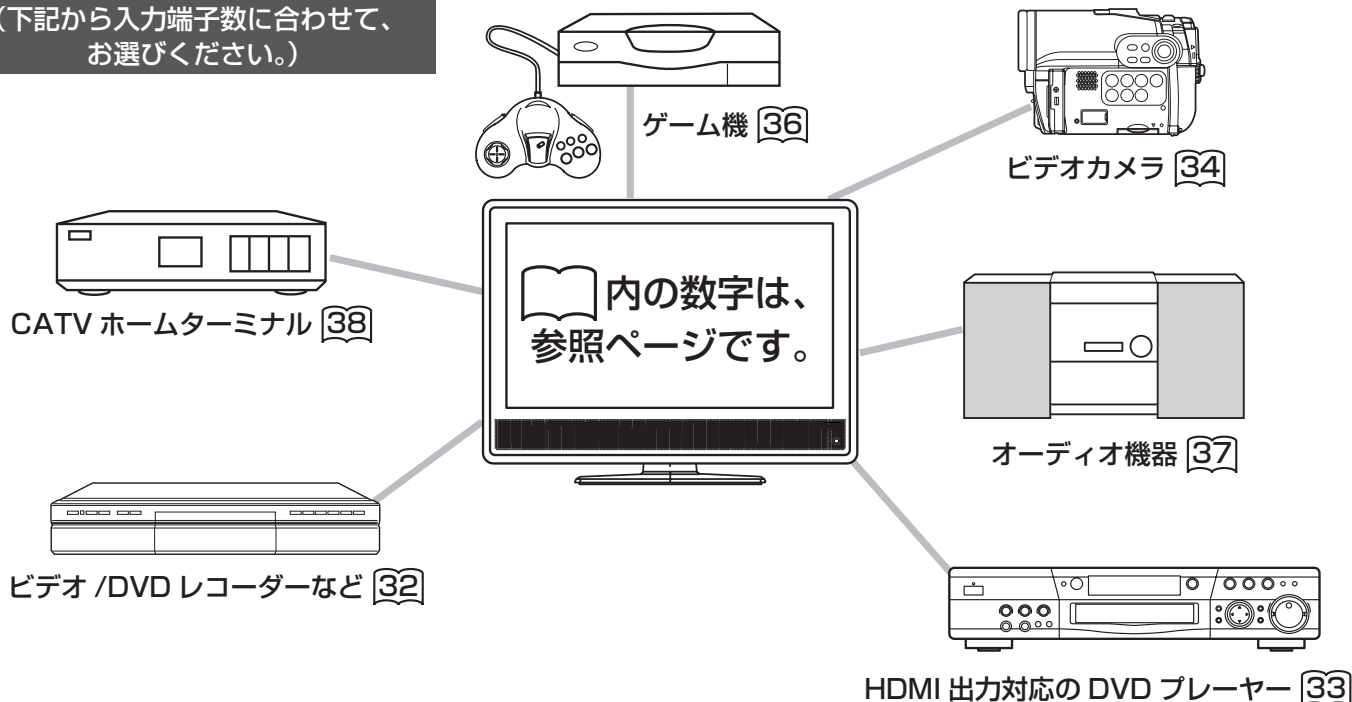
お手持ちの機器と接続する

お守りください

接続時のご注意

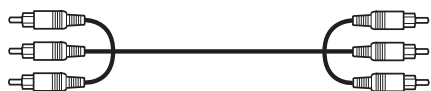
●他の機器と組み合わせてご使用になるときにはそれぞれの取扱説明書をよくお読みください。
●接続の際は各機器の電源を切ってから行ってください。電源を入れた状態で接続すると、大きな音が出たり故障の原因となることがあります。
●他の機器との接続時、入出力端子をまちがえて接続すると、故障の原因になりますのでご注意ください。
●接続する他の機器、接続コードおよびアンテナ線が、テレビの画面または画面の後面に配置されますと、映像がゆれたり妨害を受ける恐れがあります。接続機器、接続コードおよびアンテナ線は上記の配置を避けてください。特にアンテナ線は、他の接続ケーブルからもはなすように配置してください。

接続できる機器

（下記から入力端子数に合わせて、お選びください。）

※本機にはモニター出力端子がありませんので、本機から録画することはできません。

システムアップに必要な接続コード（市販品）

これらと同等のコードが相手側の機器に付属している場合には、新しく購入される必要はありません。

●映像・音声信号入出力接続コード

主に Hi-Fi ビデオの映像・音声入出力端子との接続に使用します。

●映像・音声信号入出力接続コード

主にモノラルビデオの映像・音声入出力端子との接続に使用します。

●映像信号入出力接続コード

主にビデオの映像入出力端子との接続に使用します。

● HDMI ケーブル

●音声信号入出力接続コード

主に Hi-Fi ビデオの音声入出力端子との接続、ステレオ装置との接続に使用します。

● D 端子ピンケーブル

DVD プレーヤーのコンポーネントビデオ出力との接続に使用します。

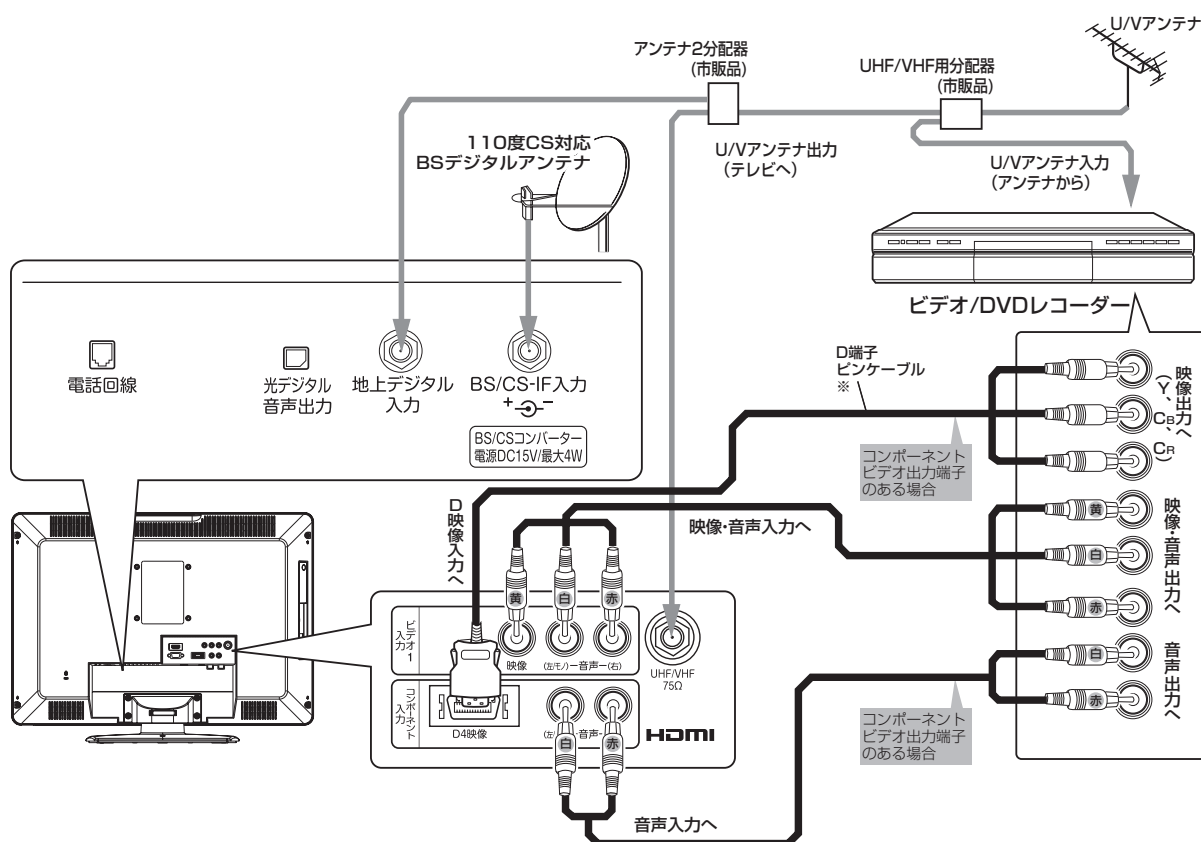
● D 端子ケーブル

D 端子対応機器や将来実用化予定のデジタル機器との接続に使用します。
詳しくは、接続機器の取扱説明書をご覧ください。

ビデオ、DVD レコーダーなどの録画機器と接続する

S 映像出力端子付のビデオをご使用のときは、S 映像コードで接続されることをおすすめします。より良い画質でビデオを楽しめます。

接続のご注意

●本機にはモニター出力端子がありませんので、本機から録画することはできません。
●接続時は必ず各機器の電源を切ってください。
●接続ケーブルのプラグは接続端子の奥までしっかりと差し込んでください。不完全な接続は、画像や音声にノイズや雑音の原因となります。（市販の接続コードをご使用ください。）
●音声はそれぞれの音声端子（L（左）R（右））に接続してください。
●接続をはずすときは、ケーブルや電源コードを無理にひっぱらず、プラグの先を持って抜いてください。
●本機と接続している機器の距離が近すぎると、画像や音声が電波によって干渉を受けることがあります。ノイズや雑音がでるときは、お互いを十分に離してください。

※ビデオ /DVD レコーダーが D 端子映像出力の場合は、D 端子ケーブル（市販品）をご使用ください。

お知らせ

●本機と録画機器の再生のしかたについては、「テレビのリモコンで DVD/HDD レコーダーなどを操作する」113 をご覧ください。
●録画機器について詳しくは、録画機器の取扱説明書をあわせてお読みください。
●アンテナ線は本機と録画機器両方に接続します。受信方法などの違いによって、接続のしかたが異なりますので、詳しくは録画機器の取扱説明書をご覧ください。
●録画機器の U/V アンテナ出力端子から本機の U/V アンテナ入力端子に接続すると、地上デジタル放送が正しく受信できない場合がありますので、この接続方法はおすすめできません。

録画機器接続時のご注意

デジタルチューナーなどの映像をビデオ、DVD レコーダーなどの録画機器を通して入力すると、著作権保護技術によって、映像が正しく表示されない場合があります。このような場合は、録画機器を通さずに、本機のビデオ入力端子に直接接続してください。

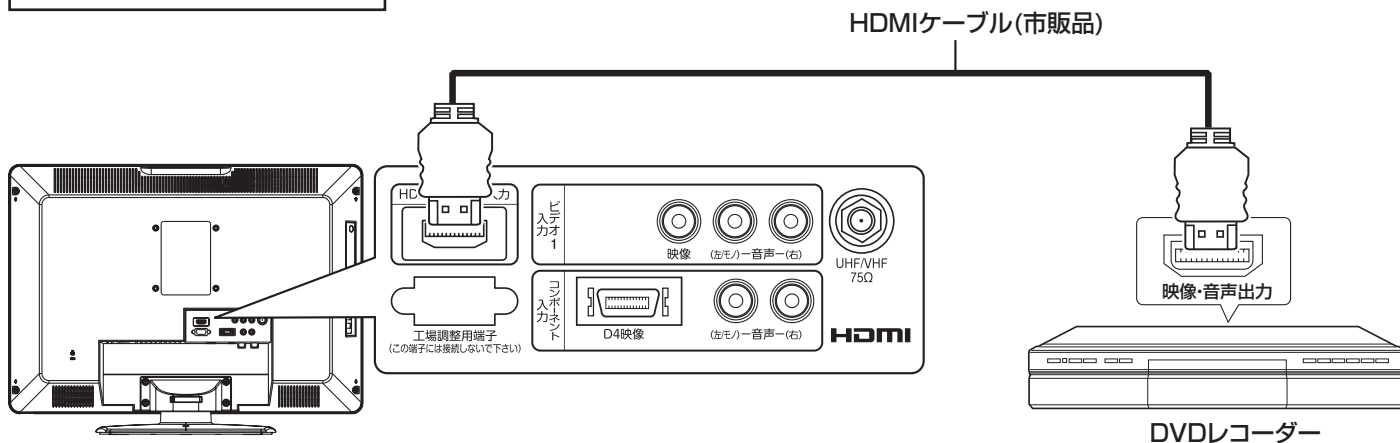
メ　モ

D4 映像入力端子について

●本機の D4 映像入力端子は、1125i（1080i）、750p（720p）、525p（480p）、525i（480i）の映像入力信号に対応しています。
●ビデオなどの「Y、PB、PR」「Y、CB、CR」「Y、B-Y、B-R」などの出力端子と接続する場合は、D 端子ピンケーブル（市販品）で接続できます。
● D4映像入力端子に接続するときは、音声入力端子にも同時に接続してください。

HDMI 出力対応の DVD レコーダーなどと接続する

本機は、HDMI または DVI 出力対応機器との接続ができます。

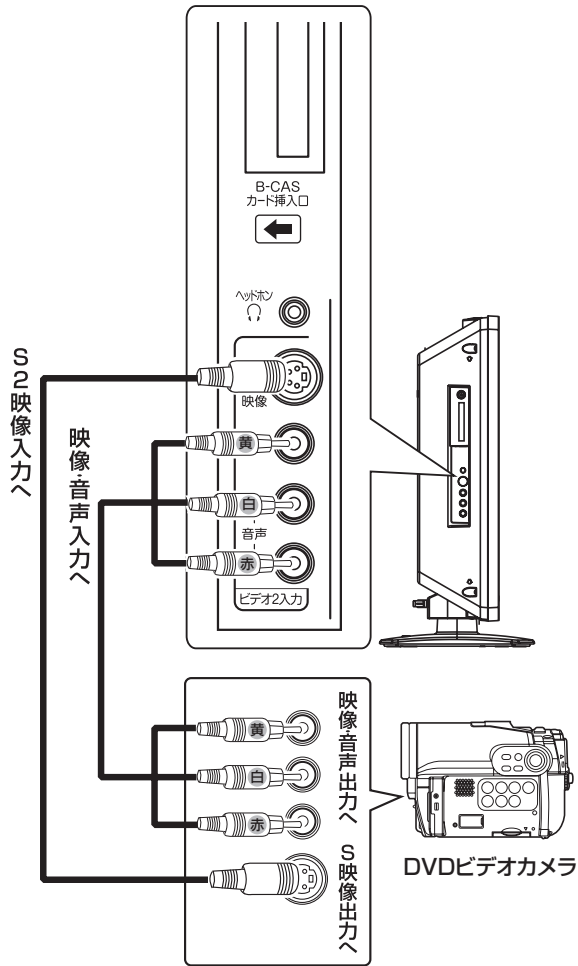
HDMI 出力対応機器の場合

お知らせ

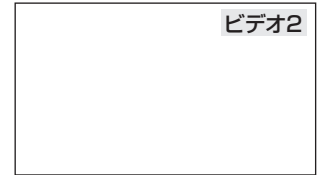
- 出力する機器側の信号切り換えや操作により画面や音声にノイズが入る場合がありますが、故障ではありません。
- HDMI 入力は、リモコンまたは本体の入力切換ボタンで選択することができます。

1 入力切換ボタンで「HDMI」を選択する

2 接続している機器を操作する

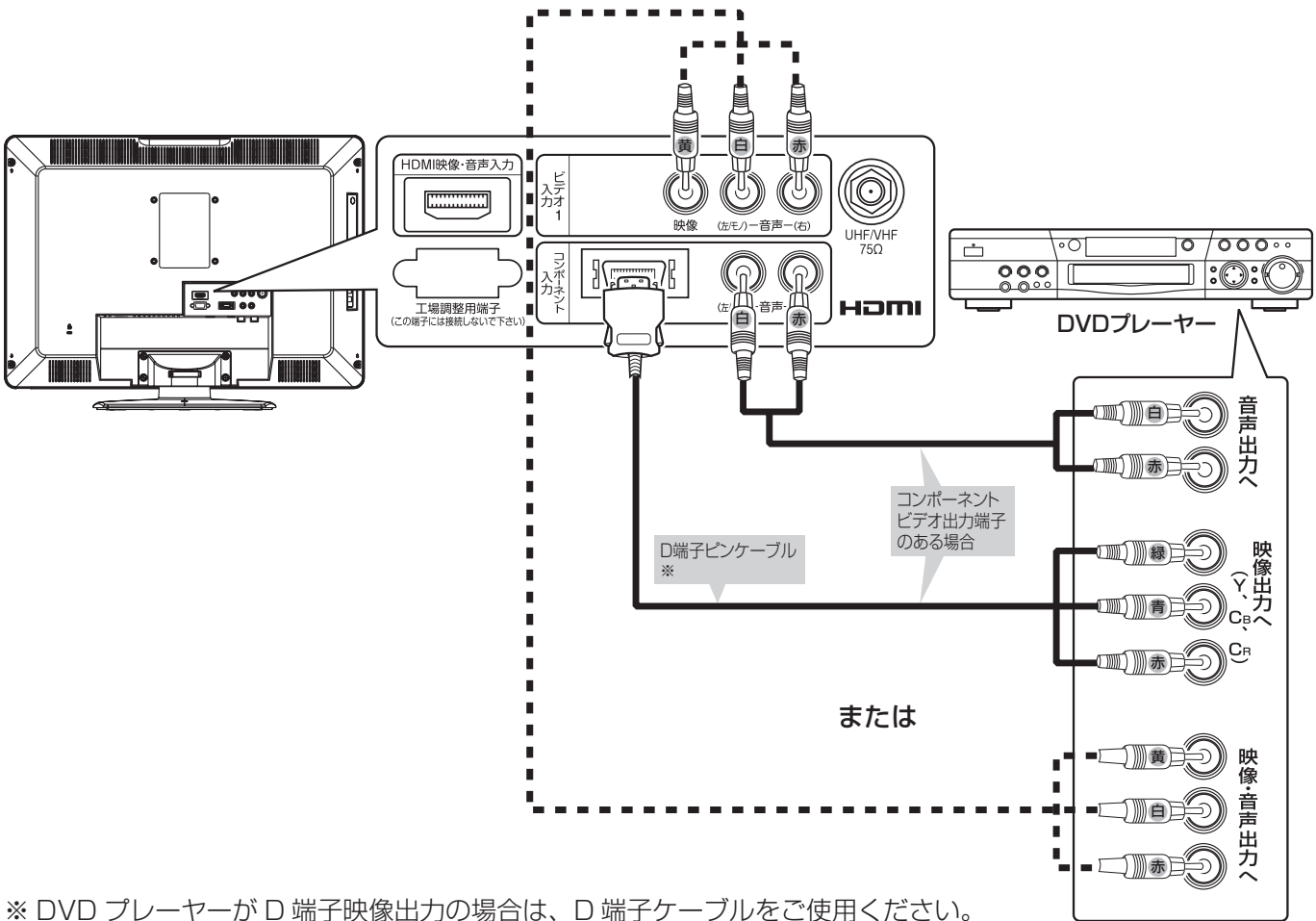
お手持ちの機器と接続する（つづき）

ビデオカメラと接続する

1 入力切換ボタンで「ビデオ 2」を選択する

画面に「ビデオ 2」の表示が出ます。

2 ビデオカメラを操作する

S2 映像端子について

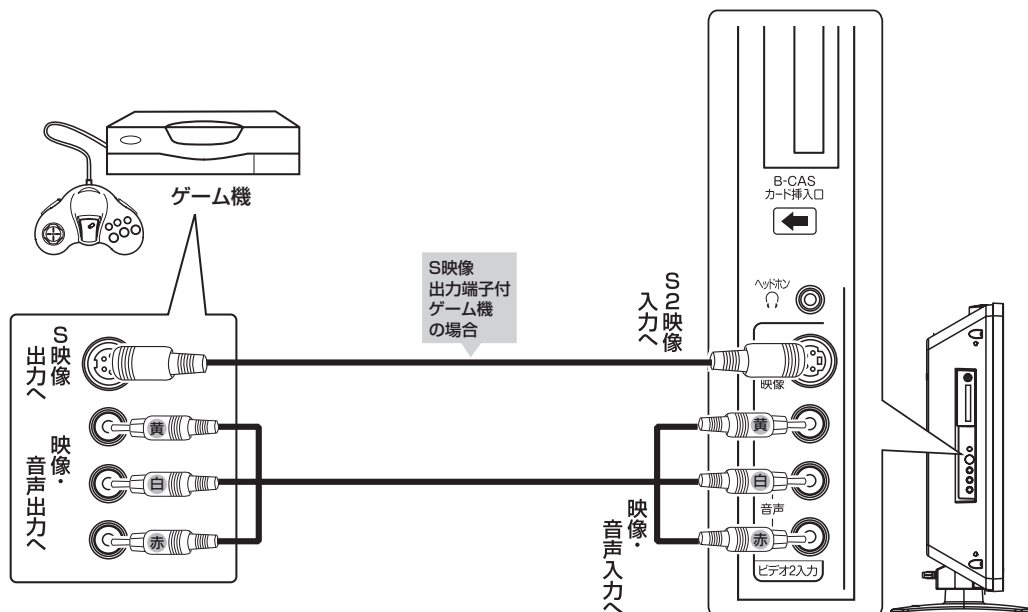
明るさの信号と色の信号を分けて送る信号用の端子です。S2 映像入力端子と映像入力端子が両方に接続されている場合は、S2 映像が優先されます。

DVD プレーヤーと接続する

※ DVD プレーヤーが D 端子映像出力の場合は、D 端子ケーブルをご使用ください。

1 入力切換ボタンで「コンポーネント」を選択する

2 DVD プレーヤーを操作する

お手持ちの機器と接続する（つづき）

ゲーム機と接続する

お知らせ

- 本機とゲーム機などの再生のしかたについては「ビデオなどの映像を見る」112 をご覧ください。
- ビデオ入力端子に入力された映像・音声信号は、わずかに時間が遅れて画面表示・スピーカーに出力されます。
  入力された信号をデジタル処理しているために遅れが発生するもので、故障ではありません。
  ・ゲーム機のコントローラを使用される場合は、コントローラの操作に対して、画面がわずかに遅れて表示されます。
  ・カラオケ機器などをビデオ入力端子に接続した場合、カラオケ機器本体のスピーカー音声に対して、テレビのスピーカー音声がわずかに遅れて出力されます。
- ゲームの種類･内容によっては、画面が欠ける場合があります。
- ライフルタイプやガン（銃）タイプのコントローラを使用するシューティングゲームなどは、本機では使用できないことがあります。詳しくは、ゲームソフトおよびコントローラの取扱説明書をご覧ください。

1 テレビゲーム本体とビデオ 2 入力端子を接続する

2 入力切換ボタンで「ビデオ 2」を選ぶ

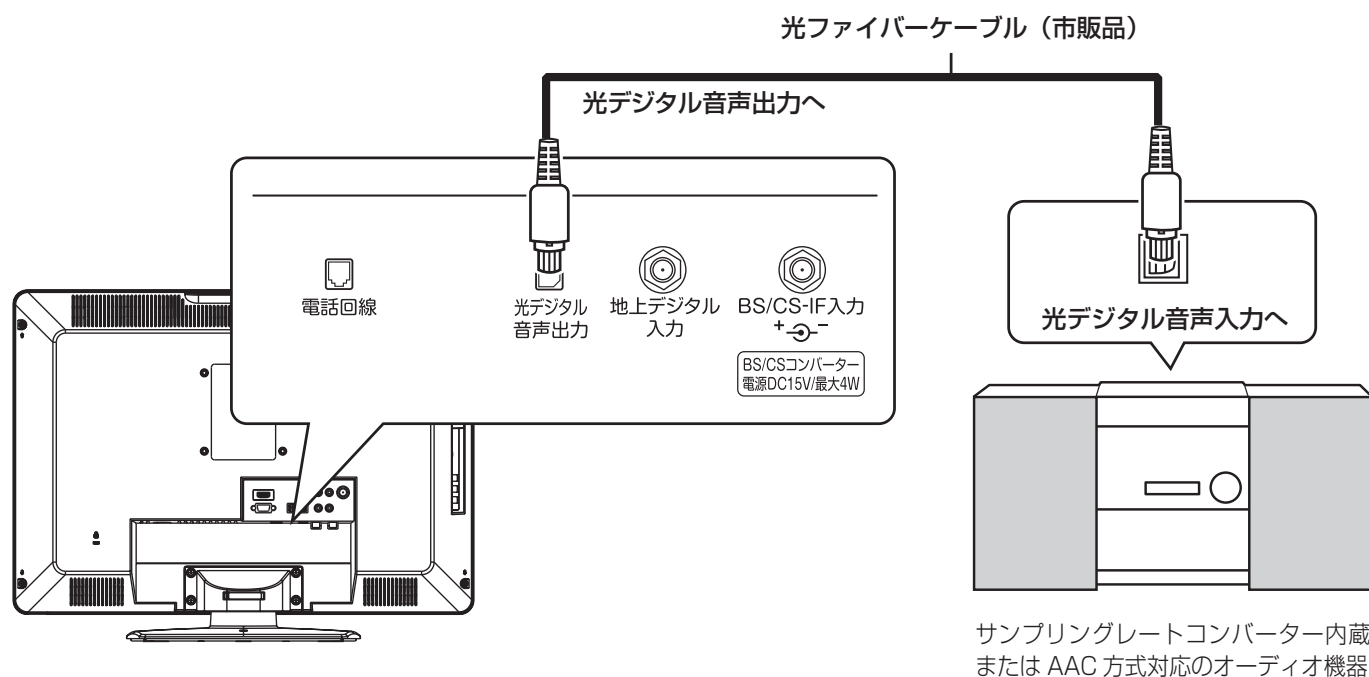
入力切換

ビデオ2

3 ゲーム機を操作する

デジタル音声入力端子付きオーディオ機器と接続する

本機の光デジタル音声出力端子に、デジタル音声入力端子付きのオーディオ機器を接続することができます。
また、本機は MPEG-2 AAC 方式で出力することもできるので、AAC 方式対応のオーディオ機器にも接続できます。「デジタル音声出力を設定する」**51** **をご覧ください。**

サンプリングレートコンバーター内蔵
または AAC 方式対応のオーディオ機器

お知らせ

- ●本機の光デジタル音声出力端子はフタでふさがっていますが、ドアのようになっています。光ファイバーケーブルのプラグ部を持って、そのままゆっくりと端子にまっすぐに差し込んでください。
- ●本機は、放送局側の音声サンプリング周波数に対応した光デジタル音声信号を出力します。このため、接続できる機器は、サンプリングレートコンバーターを内蔵したアンプや MD レコーダーなどに限定されます。
- ●デジタル番組（AAC）は音声切換ボタンを押しても、光デジタル音声出力の音声は変わりません。
- ●地上アナログ放送やビデオ入力、コンポーネント入力、HDMI 入力をご覧になっているときには、光デジタル音声は、ご利用になれません。
- ●デジタルメニュー設定の接続機器設定にて PCM を選択すると、PCM 固定出力に切り換えることもできます。
- ● PCM に設定したままでは、接続機器では PCM 再生しかできません。本機の初期設定は、PCM 固定出力となっておりますので AAC でお楽しみいただくには、接続機器設定を PCM から AAC に切り換えてご使用ください。

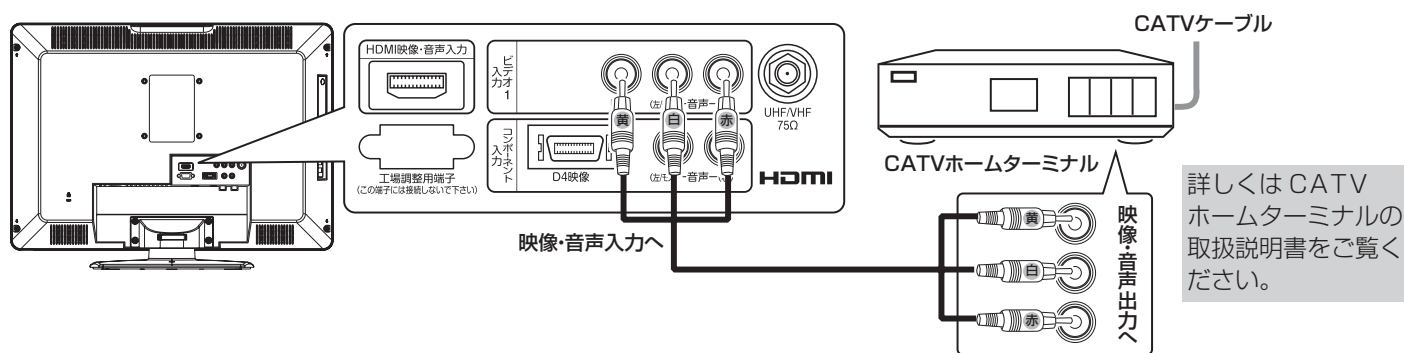
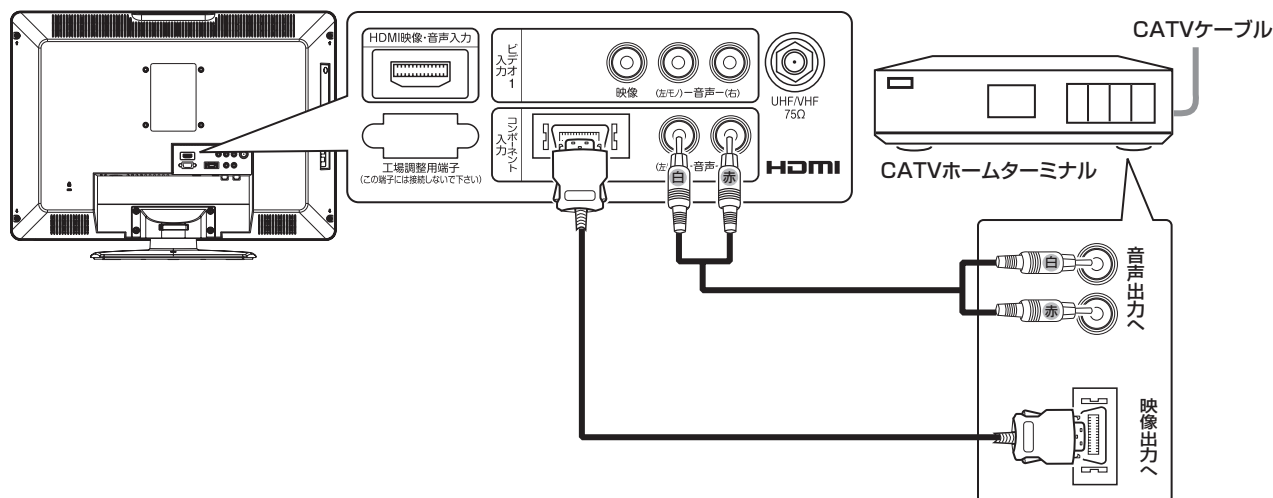
メ　モ

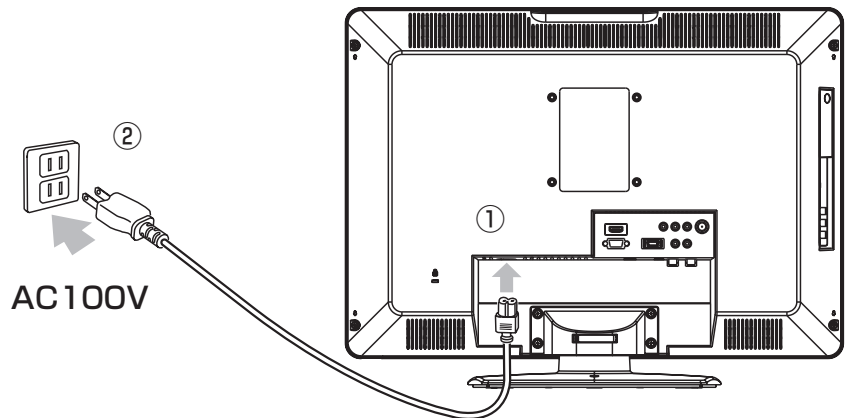
AAC（Advanced Audio Coding）について

AAC とは、音声符号化の規格の一つです。AAC は、CD（コンパクトディスク）並の音質データを約 1/12 にまで圧縮できます。また、5 チャンネル＋低域強調チャンネルのサラウンド音声や多言語放送を行うこともできます。

CATV ホームターミナルと接続する

CATV の受信は、サービスが行われている地域のみ可能で、使用する機器ごとに CATV 会社との受信契約が必要です。さらにスクランブル放送（有料）はアダプター（ホームターミナル）が必要です。詳しくは、CATV 会社にご相談ください。

詳しくは CATV ホームターミナルの取扱説明書をご覧ください。

または

電源プラグの接続について

① 電源コードのコネクタ側を本体の後面にある電源コードコネクタに差し込む
② 電源プラグをコンセントに差し込む

⚠警告

指定の電源電圧でご使用ください。表示された電源電圧以外で使用すると、火災･感電の原因となります。

⚠注意

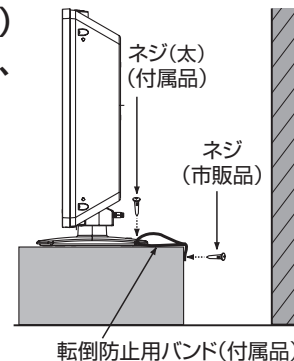
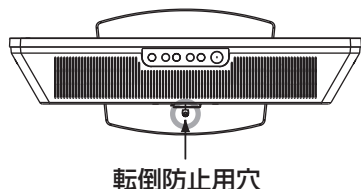
- 電源プラグをすぐに抜くことができるように本機を据え付けてください。本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと火災・感電の原因となることがあります。
- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

据え付けについて

転倒防止について

スタンドご使用時の転倒防止について

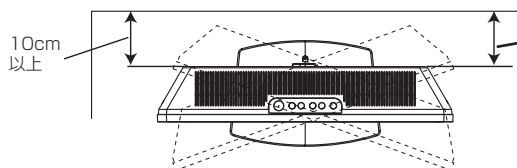
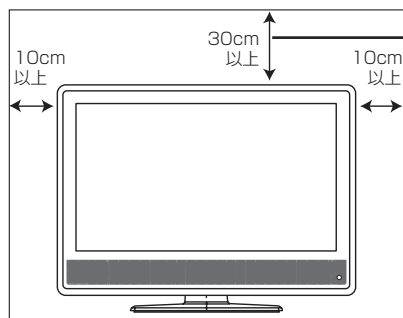
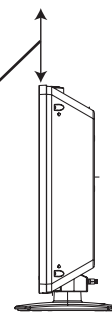
本機は奥行きが小さいため、大きな地震等の際には倒れる場合があります。必ず転倒防止を行ってください。

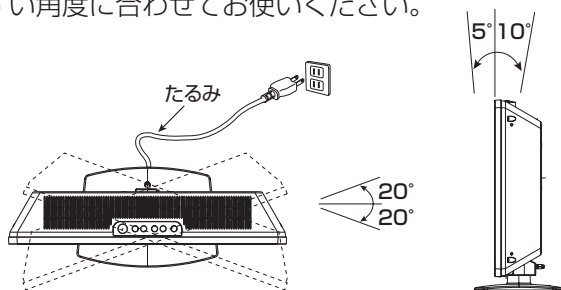
1 **本機のスタンド部にある転倒防止用穴に転倒防止用バンド（付属品）をネジ（太）（付属品）で固定し、もう一方を確実に支持できる台、壁や柱などにネジ（市販品）でしっかりと固定してください。**

⚠注意

本機は安定したところに据え付けてください。また、転倒防止の処置を行ってください。
本機が転倒し、けがの原因となることがあります。

据え付けるときのご注意

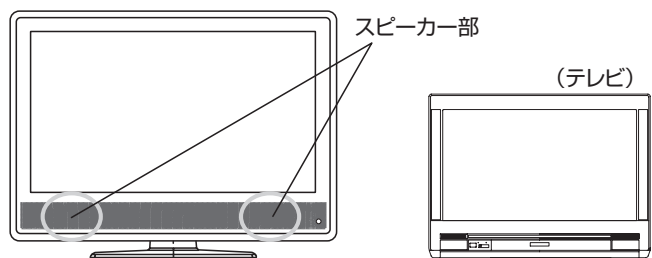
本体の設置について

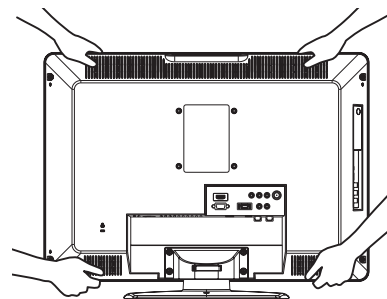
●本体の周囲は、放熱のための空間および回転時の空間を十分に確保してください。

本体の向きを変える

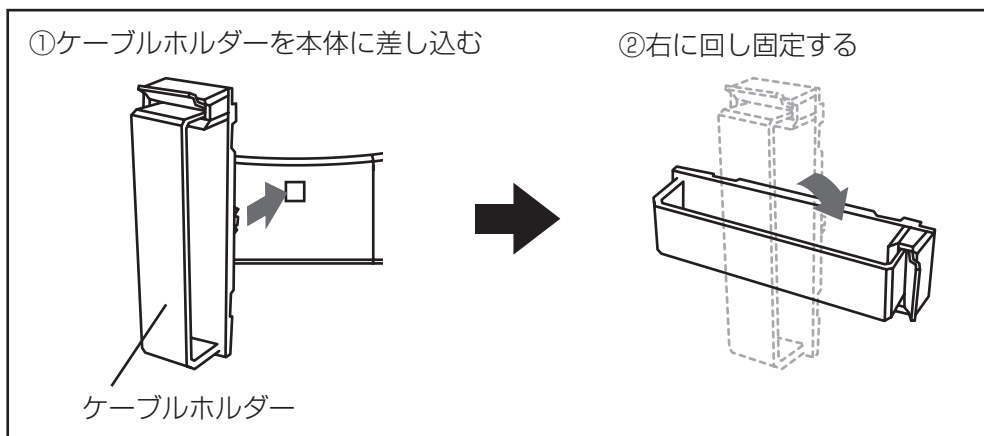
●見やすい角度に合わせてお使いください。

⚠注意

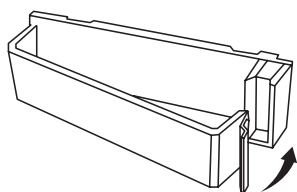
回転中に手や顔、物を近づけない。
また、必要以上の力で急激に回転させないでください。
（スタンドがすべって台からはずれてしまう恐れがあります。）

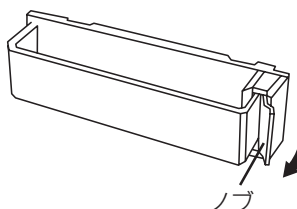
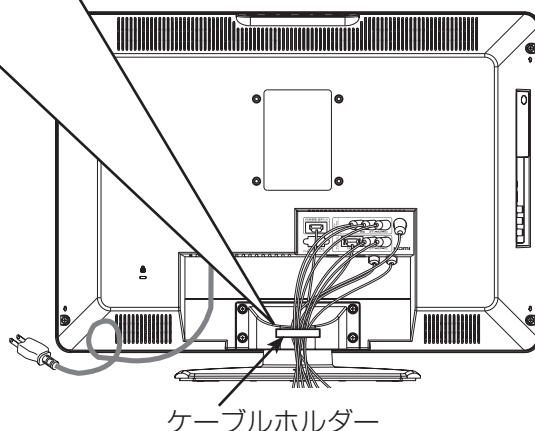
設置するとき

●ブラウン管タイプのテレビをスピーカー部に近づけると、ブラウン管テレビに色むらや画面揺れが発生することがありますので離して使用してください。

移動するとき

●この商品は重量物です。移動するときは、二人作業で持ち運びしてください。
●持ち運びは、製品上側と製品下側の両端部を持って製品を保持してください。

ケーブルの固定について

RF ケーブル、ビデオコードなどを、ケーブルホルダーで固定してください。

ケーブルホルダー

留める

矢印方向にカチッと
音がするまで押す

はずす

ノブを押しながら
矢印の方向に引く

お守りください

アンテナ線、録画機器との接続コードを接続する際は、回転に支障のないように、付属のケーブルホルダーを使用し、図のように台の後方で束ねてください。

据え付けについて（つづき）

据え付けるときのご注意（つづき）

⚠注意

●本機の据え付けには性能および安全性を維持するために必ず本体一体のスタンドをご使用ください。スタンドを使用せずに、別の取り付け強度が不足する部材を使用すると、転倒したり落下して火災・感電・けがの原因となります。
●通風孔をふさがないように据え付けてください。
通風孔をふさぐと熱がこもり、故障や火災の原因となることがあります。

●ラック、箱のような狭いところに入れないでください。
●周囲の壁などから 10cm 以上離してください(モニターを壁掛け設置する場合は除く)。但し、上部につきましては、30ｃm以上離してください。

⚠注意

電源プラグをすぐに抜くことができるように本機を据え付けてください。

本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

壁に取り付ける場合は、必ず別売の専用の壁掛け金具を使用し、販売店にお問い合わせの上、指定の専門業者に依頼してください。専門業者以外の人が壁掛け金具を使用して設置すると、壁への取り付けがもろい場合に、本機が落下し、打撲や骨折など大けがの原因となります。